

今昔雅楽集

三、千代の楽人



【出演】伶楽舎 れいがくしゃ

【演目】

◆第一部

芝祐靖 復曲

〈拾翠楽一具〉

芝祐靖 復曲

復元正倉院楽器のための

敦煌琵琶譜による音楽から

〈急胡相問〉、〈傾盃楽〉、〈急曲子〉

◆第二部

芝祐靖 作曲

管絃のための即興組曲

〈招杜羅紫苑〉

*16時45分から伶楽舎メンバーによる
プレトークがございます。



Gagaku – Japanese Court Music – from Times Past III. *Revitalising a Millenary Tradition*

「今昔雅楽集 一、七夕の宴」より 撮影：田澤 純

Reigakusha, Gagaku Ensemble

Program

Part I

Jissuiraku Ichigu (reconstructed by SHIBA Sukeyasu)

Ji Huxiangwen, Qingbeiyue, Jiquzi

From Music based on the Dunhuang lute manuscripts

(reconstructed by SHIBA Sukeyasu),

for instruments reconstructed after those of the Shōsōin

Part II

SHIBA Sukeyasu: Suite for Gagaku ensemble “Shōtorashion”

Saturday, March 13, 2021. Open 16:15, Pretalk 16:45, Start 17:00

Art Tower Mito, Concert Hall ATM

¥3,500, U-25¥1,000

2021年3月13日[土]

16:15開場*16:45プレトーク*17:00開演

水戸芸術館コンサートホールATM

◎料金(全席指定): 一般3,500円/U-25(25歳以下)1,000円

◎チケット発売: 2020年12月19日[土]

財団運営維持会員先行予約: 12月15日[火] ※電話・web予約のみ

水戸芸術館メンバーズ先行予約: 12月16日[水] ※電話・web予約のみ

主催: 公益財団法人 水戸市芸術振興財団

※U-25チケットの取り扱いの水戸芸術館のみ。※会員先行予約がありますので、一般発売日の12月19日の時点で、水戸芸術館取り扱い分が終了している場合があります。

※当館では新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行っており、通常より間隔を空けて配席する予定です。ただし今後の感染状況により、座席が追加される場合や席の移動をお願いする場合があります。あらかじめご了承の上、お求めください。

水戸芸術館
ART TOWER MITO

今は昔、^{しせい いんきょう}滋井因叶なる人、^{こま}高麗の国より渡来して「^{こま}狛」の姓を名乗り、子々孫々、南都（奈良）の興福寺に楽人として仕えたと謂われます。狛家はやがて上、西、辻、芝など八家に分かれ、京の宮廷に比肩する音楽組織「^{なん とがく}南都楽所」の繁栄を築きました。これらの楽家（楽人の家柄）出身の音楽家は、今も宮内庁楽部で活躍しています。

1935年生まれの芝祐靖もその一人。宮内庁楽部の一員として千年以上の雅楽の伝統を受け継ぎながら、同時に演奏伝承の途絶えた楽曲の復元や雅楽の可能性を広げる作品の創作に取り組んできました。その活動については宮内庁を飛び出し、民間の雅楽団体「^{しばすけやす}伶楽舎」の創設をはじめ、雅楽の門戸を開く活動へと発展します。芝祐靖の存在なくしては、雅楽が宮中や寺社の儀式を離れて広く聴かれることはなかったかもしれません。フィギュアスケートの羽生結弦選手の「SEIMEI」の音楽、といえ、芝の吹く龍笛の音色を思い出す人は少なくないはずで

雅楽の「今」と「昔」を集める「今昔雅楽集」。第3回は、2019年7月5日に逝去した芝祐靖の音楽を通して雅楽の今昔を見つめます。

幕開けは、古典曲〈^{じっすいらく}拾翠楽〉に失われた楽章を芝が復元して加えた〈拾翠楽一具〉から。こうした失われた音楽への芝のまなごしは、雅楽以前の古代の音楽にも向けられます。中国・敦煌の石窟で発見された古楽譜「敦煌琵琶譜」は、発見当時は解読不能とされましたが、日本の雅楽の琵琶譜が解読の手がかりとなりました。第一部後半では、芝の手で復元されたその音楽を、正倉院収蔵の古代楽器の復元品を使ってお聴きいただきます。第二部は芝祐靖の創作作品から大曲〈^{しょうとら しおん}招杜羅紫苑〉を。武満徹の雅楽〈秋庭歌〉に触発され、雅楽人としてこれに拮抗する作品を生み出したいと情熱を注いで作曲した芝の代表作。伝統的な雅楽の響きとシルクロードを夢想する異国風の旋律、モダンな音楽語法とが渾然一体となり、しかも親しみ深い作曲者の人柄が偲ばれる音楽です。

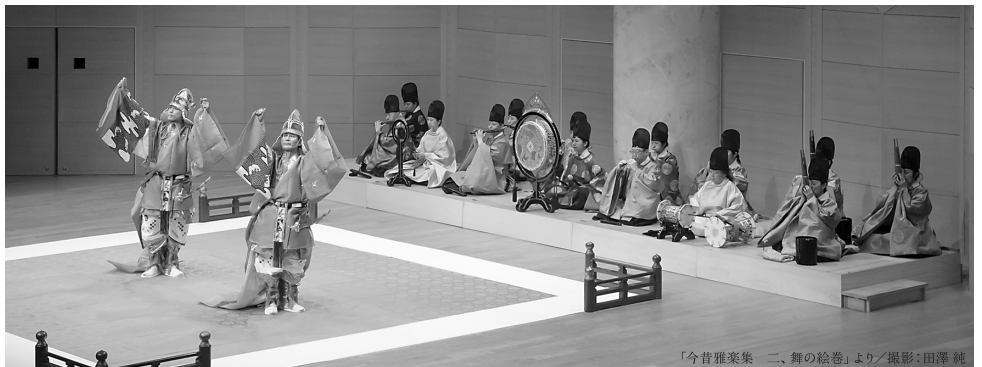
—— 当代随一の楽師・芝祐靖が見つめた雅楽の今昔 ——



撮影：田淵勝彦

芝 祐 靖 (しば すけやす)
SHIBA Sukeyasu

1935年東京生まれ。奈良系の伶人の家に生まれたため、宮内庁楽部予科、引き続き楽生科に入学。横笛、左舞、琵琶、古代歌謡などを修め、1955年卒業。宮内庁楽師（総理府技官）として主に龍笛で活動。古典雅楽の演奏のほか、現代雅楽、現代邦楽の作曲・演奏を行い、雅楽廃絶曲の復興も手掛ける。1984年宮内庁を退官し、横笛演奏を中心とした活動を始める。1985年伶楽舎を結成し、音楽監督となる。また、国立劇場の正倉院収蔵楽器復元に参加し、敦煌琵琶譜などの復興にも携わる。1986年よりソロ、伶楽舎等のアンサンブルで海外公演も行っており、古典・現代雅楽の紹介活動につとめている。2003年より日本藝術院会員。2009年旭日中綬章授章ほか受賞多数。2011年文化功労者。2017年文化勲章受章。2019年7月永眠。



「今昔雅楽集 二、舞の絵巻」より／撮影：田澤 純

伶楽舎 (れいがくしゃ)
Reigakusha, Gagaku Ensemble

雅楽の合奏研究を目的に1985年に発足した雅楽演奏グループ。創立者・芝祐靖。現音楽監督・宮田まゆみ。現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に関わり、幅広い活動を展開。国内各地の他、海外の主要ホールに招聘されて演奏。古典曲や現代曲、復元曲のCD等も多数録音。現代作品や古典雅楽様式の新曲として、これまで湯浅譲二、池辺晋一郎、増本伎共子、西村朗、猿谷紀郎、権代敦彦、伊左治直、芝祐靖他に作品を委嘱、自主公演で初演。2002年中島健蔵音楽賞特別賞、CD『秋庭歌一具』で2002年度芸術祭レコード部門優秀賞受賞。第16回（2016年度）佐治敬三賞、第50回（2020年）ENEOS音楽賞受賞。2020年、初のライブ配信での特別演奏会「芝祐靖の世界」を開催し、海外でも好評を博す。他に、解説入りの親しみやすいコンサートを企画し、雅楽への理解と普及に努め、子どもや小中学生のためのワークショップなども数多く開催している。なお「伶楽舎」とは「伶楽遊舎」、即ち、楽人の祖とされる古代中国の「伶倫」に因み、雅楽

の源と新しい雅楽の創造を探索する、自由な活動を目指してつけられた会名である。

国内では、国立劇場、サントリーホール等主要ホールでのコンサートの他、全国の小中学校で公演。海外では、タングルウッド（セイジ・オザワ・ホール）、ニューヨーク（リンカーン・センター、カーネギー・ホール、ジャパソサエティ）、ロサンゼルス（ウォルト・ディズニー・コンサートホール）、シカゴ（シンフォニー・センター）、ロンドン（クイーン・エリザベス・ホール、大英博物館）、アムステルダム（コンサートヘボウ）、ケルン（ケルン・フィルハーモニー・ホール）、パリ（フィルハーモニー・ド・パリ）他、約30都市で演奏。

<http://www.reigakusha.com>

<https://www.facebook.com/reigakusha>



オンライン配信予定！
入門 はじめての雅楽

雅楽の楽器はどんな音？ 雅楽の曲を習うときに覚える歌がある？
「今昔雅楽集 三、千代の楽人」に出演する伶楽舎のメンバーによる雅楽の解説と実演の映像を、期間限定で配信します。詳細は当館ウェブサイト等でお知らせいたします。
https://www.arttowermito.or.jp/hall/lineup/article_4248.html

●チケットの取り扱い

水戸芸術館 (9:30～18:00/月曜休館)

・エントランスホール内チケットカウンター

・チケット予約センター 029-231-8000

・ウェブ予約 <https://www.arttowermito.or.jp/ticket/>

e+ (イープラス) <http://eplus.jp> (PC・携帯)

かわまた楽器店 029-226-0351

ヤマハミュージックリテイリング水戸店 029-244-6661 (店頭販売のみ)

●お問い合わせ：水戸芸術館 チケット予約センター 029-231-8000 / 営業時間：9:30～18:00 (月曜休館)

●車椅子のお客様、盲導犬、介助同伴のお客様は、指定の席へスムーズなご案内のため予約時にお知らせください。

●公演中止の場合を除き、一度購入されたチケットの払い戻し、交換等は出来ませんのでご了承ください。●公演の内容、曲目等は、変更になる場合があります。●未就学児のご入場はご遠慮ください。

【新型コロナウイルス感染拡大防止に関するお客様へのお願い】

●新型コロナウイルス感染症の再拡大など、状況の悪化により内容の変更や公演の中止または延期を余儀なくされる場合もございますので、最新情報は当館ウェブサイトやSNSにてご確認ください。

●入館時の検温にご協力をお願いいたします。37.5度以上の熱があった場合はご入場をお控え願います。●館内ではマスクの着用をお願いいたします。●まわりの方は距離をおとりください。

●体調がすぐれないお客様はご来場をお控えください。●手洗いと手指の消毒にご協力ください。●クロークのご利用は当面の間、中止させていただきます。

